

令和4・5年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書

評価実施校	湘南支援学校	課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞	課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞
カテゴリー名	特別支援学校		
課題1	<p>カリキュラム・マネジメントを踏まえた『全校一貫教育（湘南養護ブランド）』の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内で『全校一貫教育（湘南養護ブランド）』のコミュニケーションツールとしての活用をすすめているが、個々の特性に応じた指導・支援の充実や、よりよい実践につなげるため、カリキュラム・マネジメントと関連付けて検証をする必要がある。 	<p>カリキュラム・マネジメントとは、学校の教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程（カリキュラム）を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくことである。</p> <p>カリキュラム・マネジメントの確立に向けては、着実な教育課程の編成・実施と、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげていくことが求められている。</p> <p>教育課程の編成については、単元計画を軸とした授業改善の取組について、全校研究として取り組んでいることは評価できる。各教科等を合わせた指導と自立活動について、実際の指導から見直し、教育課程編成に反映させる取組が進められてきたことは、大きな成果である。特に授業改善に向けた具体的な取組は、授業ふり取りシートや単元ふり取りシートを活用して全校的に着実に進んでいる。引き続き、単元計画と評価のあり方を検討し、使いやすいシートの開発など、教育課程の改善につなげる視点を持って取り組んでほしい。個別教育計画の書式については、引き続き検討が必要であると考えます。</p> <p>またコミュニケーションツールとしての「湘南ブランド」については、校内での新転任者への研修会の実施や校外での活用・発信に取り組んでおり、授業や生活の場での活用が定着されていることも確認できた。さらに、自立活動の視点での検討を行ってきたことは評価できる。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>各学部の教育課程編成を見直した。具体的には自立活動の時間を設け、各教科等を合わせた指導について内容の見直しを行った。</p> <p>年間指導計画については形式を全学部で統一し、単元計画を立て、単元の終わりに振り返りシートを使って反省するなどして、指導計画の評価・改善を図るよう取り組んだ。</p> <p>コミュニケーションツールとしての「湘南支援ブランド」について新転任者への研修会だけでなく、実践の様子や、コミュニケーション指導の事例を動画に録って校務グループで共有することで実践を更に広げることができた。</p> <p>校内研究では「社会性の育成」をテーマに自立活動の視点を取り入れ、授業改善シートを活用して話し合いを進めている。職員の自立活動指導に関する意識が高まった。</p>
R5指標	<p>1. これまでのコミュニケーション指導について、自立活動の視点で見直しを図るとともに、コミュニケーションツールに関する研修会、実践報告等を実施し実際の指導に活かす。</p> <p>2. 単元計画を軸とした授業改善の仕組みづくりを行い、各学部の実情に合わせて実践する。</p>	<p>児童・生徒の実態把握と指導目標・内容の設定において、自立活動の指導を意識して進めることも全校的に進めている。</p> <p>引き続き、個別教育計画を充実させながら、個々の課題を明確にし、自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等との関連や学校生活全般での活用を進めることが重要であると考えます。</p> <p>この2年間で取り組んだ上記の組織的な活動を継続することが、何よりも重要である。カリキュラム・マネジメントでは、「学校に存在する様々な計画についてPDCAサイクルをきちんと回すこと」が基盤と言える。そのためには、個別教育計画の計画（指導の目標、内容、手立てなど）の書式を見直し、実際の教育活動とのつながりを明確にすることが求められる。</p>	<p>＜課題＞</p> <p>個別教育計画の書式については「キャリア教育」の4つの観点に分けて記入する形式となっており、実態を自立活動の区分に即して整理し、指導の方針や重点目標・内容を決めて、具体的な指導内容をどの授業で行うのかが、明確になっていないと指摘された。次年度に向けて、書式の大幅な変更には取組むことができなかったが、実態を自立活動の区分に即して整理し、重点課題を決めていく、という流れを図示するなど、教員が自立活動の視点をより意識できるよう、個別教育計画作成の手引き書に工夫を盛り込むことを検討している。</p> <p>今後は、神奈川県の方針も踏まえ、他校の個別教育に関する研究報告等も参考にしながら、個別教育計画と、実際の教育活動のつながりがわかるような工夫について校務グループで話し合いをしていきたい。</p>
課題2	<p>開かれた教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育の推進及び障がいのある子どもの理解をより一層すすめるため、地域の学校との交流及び共同学習や地域資源の活用、対保護者の視点も意識した情報発信について検討する必要がある。 	<p>年間指導計画や個別教育計画の保護者への配付、Google Classroomの積極的な活用、学年だよりや進路支援通信の発行など、保護者との連携を進める取組は評価できる。特に保護者への指導計画、内容の説明をとても丁寧に行っていることは、素晴らしい取組である。引続きこうした取組を進めていくことが、何よりも重要である。</p> <p>交流及び共同学習では、小学部、中学部、高等部それぞれで、交流及び共同学習が積極的に進んでいる。事前の打合せや準備には労力を必要とするが、丁寧に行っていくことで充実するように努めていることも高く評価する。現在行っている作業学習を通じた活動などは、お互いに目標を設定しやすい優れた実践である。今後、より共同学習の側面を意識した検討を行い、学校全体として計画的に取り組むことを期待したい。また当校の児童・生徒への理解を地域に深める取組として、この交流及び共同学習を推進するとともに、地域の小・中学校等などに向けて「特別支援教育センター」として当校の役割が充実することにも期待する。</p> <p>市役所での作品展の開催、地域の清掃活動の実施、市福祉避難所防災訓練や自衛防災訓練への参加など、地域との連携を進めようとする取組も評価できる。今後一層、学校運営協議会の活用も含め、連携を推進することを期待したい。</p> <p>「インクルーシブハブ湘南」（地域4つの特別支援学校と地元との連携）の活動も始まった。「学校内外の資源を教育活動の充実フル活用する」こともカリキュラム・マネジメントでは、重要な取組である。今後も取組を継続し、地域の方や近隣の学校とのさらなる関係性の発展・強化や、当校や障がいの理解者の増加を大いに期待する。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>保護者に対して年度始めに年間指導計画を配付し、学年だより等で授業の内容や様子を伝えるようにした。また、学校の教育活動について、動画配信や進路支援通信、相談支援通信の発行、ホームページを通して幅広く発信することができた。</p> <p>居住地交流は事前に打ち合わせを行い、初回は担任が付き添うことで児童・生徒が地域の小中学校の児童・生徒と共に学び合うことができるように準備をすることでスムーズな交流ができた。また、児童がコミュニケーションツールを活用して交流する場面も見られた。</p> <p>学校間交流では、どの学部も地域の小・中・高等学校の児童生徒と交流することができた。特に高等部では本校の作業学習に高校生が参加することで本校の生徒が自信を持って高校生に作業内容を伝達し、作業を通してお互いの理解を深める良い学習の機会となっており、今後も継続して進めていく。</p>
R5指標	<p>3. 地域の学校と事前打ち合わせを丁寧に行い、交流及び共同学習を充実させる。また、保護者へ年間計画を提示するとともに、学年だより等により、日々の学習内容をよりわかりやすく伝える。</p>	<p>地域での作品展をより多くの人が見学できる場所に変更して行った。高等部の生徒が地域の公民館清掃や地域清掃にも積極的に取り組むなど、コロナ禍で中断していた地域での活動を少しずつ再開し始めた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>「インクルーシブハブ湘南」の活動については、年度途中から始まり、学校全体としての取り組みにはなっていないので、次年度計画的組織的に進めていけるように検討する。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>居住地交流は事前に打ち合わせを行い、初回は担任が付き添うことで児童・生徒が地域の小中学校の児童・生徒と共に学び合うことができるように準備をすることでスムーズな交流ができた。また、児童がコミュニケーションツールを活用して交流する場面も見られた。</p> <p>学校間交流では、どの学部も地域の小・中・高等学校の児童生徒と交流することができた。特に高等部では本校の作業学習に高校生が参加することで本校の生徒が自信を持って高校生に作業内容を伝達し、作業を通してお互いの理解を深める良い学習の機会となっており、今後も継続して進めていく。</p> <p>地域での作品展をより多くの人が見学できる場所に変更して行った。高等部の生徒が地域の公民館清掃や地域清掃にも積極的に取り組むなど、コロナ禍で中断していた地域での活動を少しずつ再開し始めた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>「インクルーシブハブ湘南」の活動については、年度途中から始まり、学校全体としての取り組みにはなっていないので、次年度計画的組織的に進めていけるように検討する。</p>
		<p>総括評価(これまでの訪問①～⑤を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞</p>	<p>総括評価を踏まえた次年度の改善点および改善方法 ＜実施校＞</p>
		<p>「湘南ブランド」の活用など、これまでの実践の蓄積である学校の強みを更に充実させるとともに、課題解決に取り組んできた。カリキュラム・マネジメントに関して、自立活動の指導や各教科等を合わせた指導を見直し、教育課程編成を改善した。また、校内研究として「授業改善の仕組みづくり」の研究に取り組み始め、単元計画を軸とした検討を進めていることは、教育課程の改善につながる取組であると評価できる。</p> <p>各訪問時に校内参観をさせていただき、日常の学校の様子を拝見することができた。そして、生徒との直接話をさせていただく機会を設定していただいた。その中で、以下の点が大変印象的であった。</p> <p>*「児童・生徒ファースト」で教員が取り組んでいる。 児童・生徒がのびのびと学校生活を送っている。教員の大きな声やざわざわした雰囲気はなく、児童・生徒のペースを第一に教員が児童・生徒からの発信を促しながら見守っている様子が窺えた。 生徒と話した際には、自分のことを素直に話してくれ、学校が自分の居場所として居心地の良い、安心できる場所であることが窺えた。</p> <p>*授業改善に向けて教員が迅速に取組を進めている。 自立活動を軸に教育課程編成を見直し、全体計画や単元計画を踏まえ授業改善に取り組んでいる。</p>	<p>○教育課程編成、年間指導計画・単元計画の立案、指導案の作成、授業の実践のPDCAサイクルを継続して行い、個別教育計画に基づく教育実践の充実を図る。 自立活動の指導や各教科等を合わせた指導について、各学部、今年度の実践を振り返り、次年度の編成を検討し、年間指導計画を立てる。 単元計画振り返りシートや授業改善シートを活用して指導計画を振り返り、今後の指導の改善に取り組む。 個別教育計画の目標や手立てを作成する際に、具体的な指導を、どの授業で行うかを明確にし、年間指導計画や単元計画と関連付ける。</p> <p>○より地域に根差した教育活動を展開できるようにする。 居住地交流や学校間交流について、目標や内容を各学部で再確認し、より充実した内容で実施できるようにする。 作品展や学校公開などにより、本校の児童・生徒について、地域に広く知ってもらい、理解を深めてもらう活動を行う。また、児童・生徒が地域と関わり、地域の方と共に学ぶなど、交流の機会を多く設けていく。 インクルーシブハブ湘南の活動について校務グループの地域連携班の活動として位置付けて、組織的計画的に取組み、地域の資源を教育活動に活かせるようにしていく。</p>